

環境保全報告書

①2022年度の重点取組目標・計画の実施状況

ア・地球温暖化対策【温室効果ガスの抑制】

C02においては、燃料、電力の省エネルギー、燃料代替（C02発生量の少ない燃料使用）などを通じて排出量の削減、排出原単位の削減に努めます。

弊社は『C02の排出量を2030年までに2013年比で26%削減に挑戦する』を目標に会社全体で取り組み2022年度の実績では、下表に示すとおりC02排出量で基準年度2013年度よりC02で21.21%の削減をしています、2021年度と比較しますと製造量が0.8%減少しましたが、C02は1.7%の削減となりましたまた原単位に関しても0.9%の削減をしております。

弊社では2018年に自社の原料油から食用油への各製造工程で発生する動植物の廃油を独自技術で分離・ろ過・温度制御を行いました廃油を主蒸気ボイラー用の燃料として使用する大規模設備改修を行いました。

上記の設備改修前は通年で重油を1,200KL程度消費していましたが、改修後の主ボイラーでの重油使用量は年間で6KL程度までに削減をすることが出来ました。

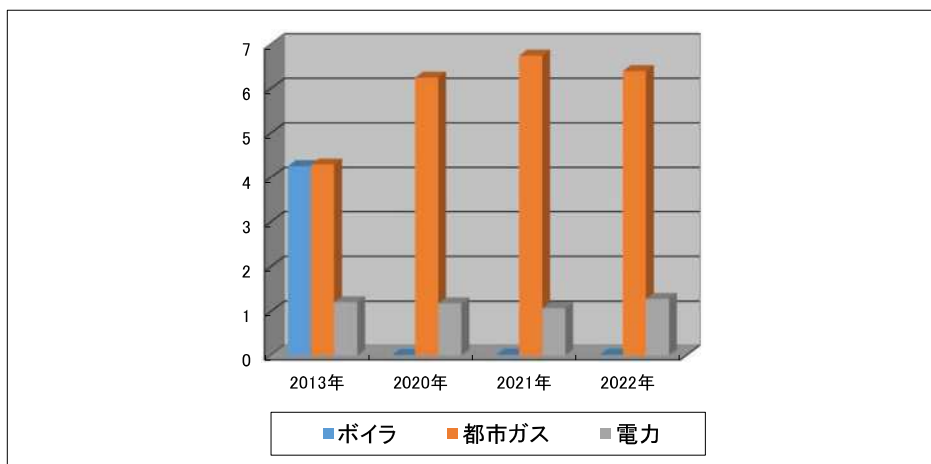
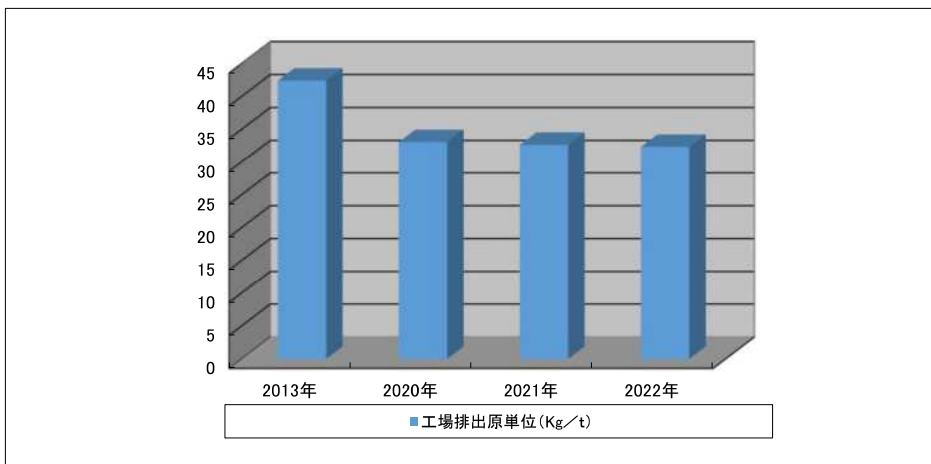
またコージェネレーションを含めた複数の熱源発生設備を効率良く運用することで、エネルギー負荷の変動に対しても効率的に対応を可能にしております。

エネマネの導入によりエネルギーの「見える化」で蒸気の効率的な使用に貢献しています。

会社全体の取り組みによる目標達成への成果が下の表に表しております

工場C02排出状況

項目		(基準年) 2013年	2020年	2021年	2022年
製造量	(千t)	230	225	240	238
工場 C02排出量	ボイラー(千t)	4.263	0.009	0.016	0.016
	都市ガス(千t)	4.297	6.25	6.743	6.397
	電力購入(千t)	1.210	1.185	1.076	1.285
	合計(千t)	9.770	7.444	7.835	7.698
工場排出原単位(kg/t)		42.4	33.1	32.6	32.3



工場CO2排出量 (千 t)

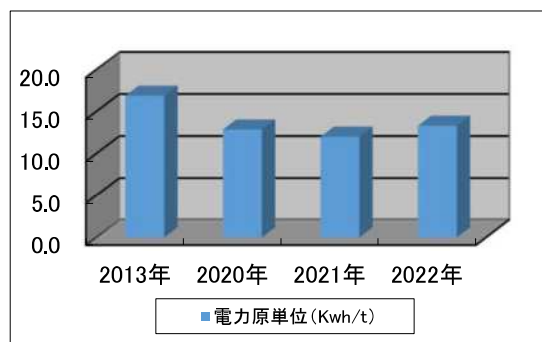
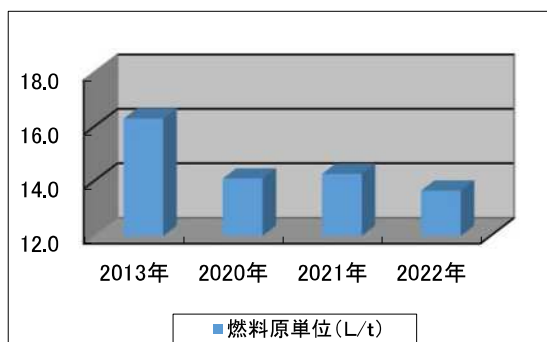
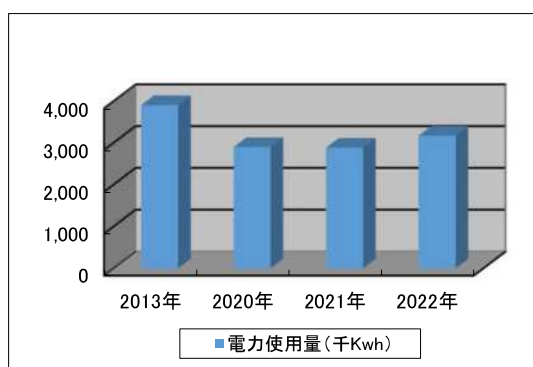
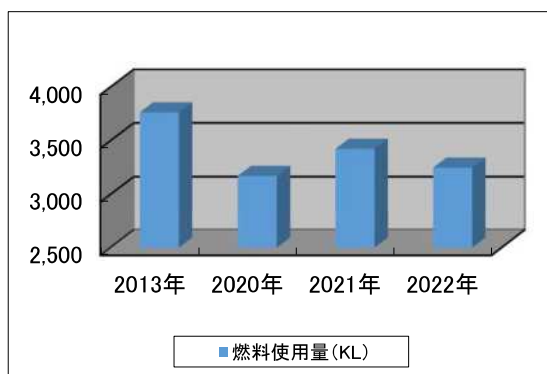
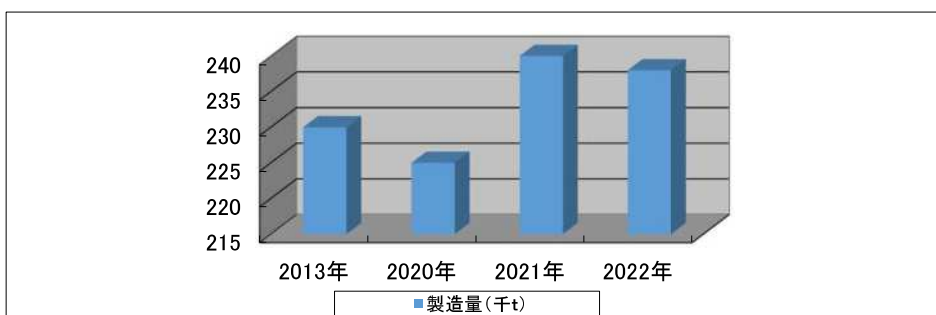
イ・省エネルギーの推進

エネルギーの総量につきましては2021年度に対して2022年度は燃料総量で5.3%増加、電力総量では9.9%増加となりました。

会社の取り組みとして毎月全管理職でエネルギー使用量の報告会を実施して情報共有を図り、さらには一昨年から会社全体として、一人ひとりが業務改善活動を積極的に行う様に意識改革を進めた結果、下記のような取り組みの成果が数値にも表れて工場排出原単位0.7%の削減の原動力となりました、今後も植田製油株式会社は省エネへの挑戦を続けて持続可能な社会に向けて貢献していきます。

エネルギー使用量・原単位

項目		(基準年) 2013年	2020年	2021年	2022年
製造量	(千t)	230	225	240	238
燃 料	総量(KL)	3,764	3,172	3,424	3,249
	原単位(L/t)	16.3	14.1	14.3	13.7
電 力	総量(千kWh)	3,904	2,899	2,887	3,173
	原単位(kWh/t)	16.9	12.9	12.0	13.3



② 公害防止対策に係る報告

ア・目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目標項目		目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
大気汚染防止対策	ばい煙(硫黄酸化物、ばいじん窒素酸化物等)、有害大気汚染物質の年間総排出量の把握と排出量削減	硫黄酸化物、ばいじん窒素酸化物の年間排出量を把握有害大気汚染物質は把握できず	良質燃料に転換
	ばい煙の排出規制の遵守	排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。(測定結果は別途報告)	排ガス処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、「排出ガス中のばい煙濃度等測定計画」により、目標値の遵守状況を確認した。
水質汚濁防止対策	(公共下水道に排出する場合)		
	排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。(測定結果は別途報告)	排水処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、「排出水の汚濁状態測定計画」及び「排出水の汚濁負荷量の測定計画」に基づき目標値の遵守状況を確認した。
	富栄養化防止対策の推進(窒素・磷の総量管理)	窒素・磷の排出目標値を測定結果が満たしていた(測定結果は別途報告)	
土壌汚染防止対策	(特定設備を使用している場合)		
	土壌汚染の未然防止	特定設備からの土壌汚染は認められなかった	特定設備からの地下浸透により、土壌汚染を生じることのないよう施設の維持管理を行った。

イ・2018年度 排出水の汚濁状態測定結果

排水口名 : 総合排水処理設備最終排水口								
項目	項目		管 理 目 標 値	測 定 値		全測定 回 数	目標値を 超過した 測定回数	法令基準 達成判定
				(pHのみ 最小~最大)	平均			
法令排水 基準設定 項 目 (生活環境 項 目)	11	水素イオン濃度(pH)	5~9	7.2~7.6	連続	連続	0	○
	12	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	2,000ppm	18.4	6.3	24	0	○
	13	浮遊物質量 (SS)	2,000ppm	31	12.5	24	0	○
	17	窒素含有量	1,200mg/L	6.2	7.4	12	0	○
	18	磷素含有量	160mg/L	3.6	1.5	12	0	○

単位はpHを除き、mg/ℓ ND: 定量下限値以下

○ 達成 × 未達成

③ 地球温暖化対策に係る報告

ア. 2022年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量 (MJ)	排出係数 kg-CO2/MJ	排出量 kg-CO2	温暖化係数 CO2
燃料の使用	A重油	6,000	ℓ	39.1	0.0693	16,258	1
	都市ガス	2,793,000	Nm3	45	0.0509	6,397,367	1
電気事業者から供給された電気の使用	エネット	3,173,000	kWh		0.405	1,285,065	1
熱供給事業者から供給された熱の利用			MJ		0.067		1
合計						7,698,689	

イ. 当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標		排出量		削減率 (%)	
	今年度 (2022年度)	2030年度	基準年度 (2013年度)	今年度 (2022年度)	今年度 (2022年度)	2030年度
二酸化炭素	7,704,065	7,230,740	9,771,283	7,698,689	21.21	26.00

0

ウ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

項目	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等でのエネルギー使用量の削減	全従業員からの改善活動	全従業員の意識変革	1人1件/年	採用92件
		蒸気使用量を削減する	azbilのエネマネによる蒸気使用量に応じた圧力制御で省エネ対策	1%	工場全域で使用する蒸気の流れを見える化してPCで自動で流量制御を行い使わない蒸気の無駄を無くした
			貯蔵タンクの加熱時の放熱ロス対策	3%	油出荷頻度が増加して加熱の回数が増加したタンクを保温する改修を実施したら蒸気使用量が56,808Kg/年間で削減出来た
			人材の育成強化	各課1件	加熱室の蒸気量を見える化して改善後、蒸気を改善前より9,180kg削減
		電気節電	旧型電動機の高効率型電動機 I E 3 への更新	重点対策	0.4KW×7台・0.75KW×2台・2.2KW×3台・11KW×1台
			高圧変圧器更新	徹底	2カ所更新 効率3%向上
			計装制御エア管理手法見直しにより省エネを図る	重点対策	①自動制御空圧バルブの電磁弁集中BOXを2系統分更新する 若干のエア漏れも無くなる ②手動パージをタイマーで自動に変えた
			照明の点灯方式見直し	省エネ重視	トイレの照明を人感センサーに2カ所変更し点灯時間の適正化
			休み時間等に消灯	徹底	実施率90%
			冷暖房の適正化	夏季:28℃ 冬季:20℃	概ね実施
2	環境負荷の少ない燃料の選択	良質燃料への転換	都市ガス貫流ボイラーを4基最高率にて運転	都市ガス	廃油専焼ボイラーをベースとして負荷対応のボイラーとして運転
			炉筒煙缶ボイラー2基リニューアル工事済	廃油専焼	廃油(動植物油)専用として運転し都市ガスの使用量を削減する

④ 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

2022年度の環境保全活動に係る具体的実施内容

項目	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等での節水	用水	生産歩留まり向上 凍結防止弁設置	可能な限り	上水は昨年より0.5%削減 工水は昨年より10%削減
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	空缶、空瓶、紙等の分別回収	紙類の専用 収集ボックスの設置	全職場 に設置	実施率100%
		コピー紙の使用削減	再資源化への回収徹底	比率60% 以上	2,022年度58%
			ミスコピー紙の再利用あり	徹底	概ね実施
		廃棄物発生量の削減	電子化の推進 社内LANの活用	紙使用量を 5%削減	前年度から購入量 11%削減
廃棄物発生量の削減	納入業者への 梱包削減依頼	全納入業者 に依頼	廃棄物発生量の削減		
3	事業所等での再生製品等の使用	グリーン購入の実施	文房具	可能な限り	筆記用具及び用紙類全種
			機械器具・備品	可能な限り	実施
		プリンタートナー カートリッジのリサイクル	ほぼ全ての機種	100%	実施率100%
		掃除用ウエス再生利用	-	可能な限り	実施
4	環境負荷の少ない資源材料、燃料の選択	工場で使用する蒸気を 自社で発生する廃油を燃料とする専用ボイラーで 作り 都市ガスの使用量を削減	重油焚き専用 ボイラー1基廃止	100%	自社の廃油を 100%再利用 産廃処分無し
		フォークリフトの転換	内燃機関から バッテリー式に転換	可能な限り	対象機種無し
5	自動車対策	マイカー通勤について	コロナ対策として従業員 には車通勤を推奨	コロナ対策 終了まで	従業員の安全対策として
		アイドリングストップ の推進	社内ルール確立、取引先 全社に案内書を送付	全車両対象	実施率100% (冷凍車は省く)
		低公害・省エネルギーな 自動車への転換	-	可能な限り	社有車3台を ハイブリット車に入替
7	環境に配慮した施設整備	緑地の整備	工場緑化	可能な限り	本社棟建設工事につき 暫定的に削減
		光害の抑制	夜間照明の減量化	消灯の徹底	概ね実施
8	従業員教育	社内掲示板での啓発	-	eValue	概ね実施
9	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	各個人への 環境意識向上	年6回実施	神戸市3工区クリーン 作戦に全て参加 のべ120名以上
10	品質管理 マネジメント システムの充実	FSSC22000認証	審査	認証継続	FSSC22000 認証継続維持